

育休父さんからのメッセージ

P&G 中村 喜一郎

私が育児休業を取得して、早 10 年になります。

つわりで気分がすぐれない中、通常業務はもとより海外出張までこなす妻を見て、何かもっとできないかと考え、「代わりに生むことはできないが、育てることはできる」と育休を決意しました。

私たちが勤める会社は、当時から、人種・国籍・性別・年齢などの違いが生み出す「多様性」を活用することを奨励する会社でしたが、それでも男性の育休は珍しく、上司にはおそろおそろ切り出したものです。しかし「君と家族にとって素晴らしいことだ。応援するよ」と逆に勇気づけられました。

育休生活は、最初は、おむつ換えやミルクのたびに服まで汚してしまい、洗濯に追われる毎日でした。徐々にコツをつかみ、気持ちに余裕が出てくると、今度は周囲が気になりだし、散歩中に奇異な目で見られているように感じたりもしました。しかし、日々成長し変化する人間の神秘とでもいうものに立ち会えたのは、人生の大きな財産になりました。今でも、娘の誕生日に私の新聞コラムの切抜きや小さい頃のビデオを見せては、「誰のおかげで大きくなったと思ってんのや」と恩を売っています(笑)。

その後、家族そろってベルギーに海外赴任し、私も妻も娘もそれぞれ「日本人は一人」という環境で、以前にもまして多様性にもまれる毎日をすごしました。が、夫婦共働きで、生まれた時から妻、私、私たちの親、保育所とさまざまな人たちとの「育児の共有」の輪の中で育った娘は、70カ国以上から生徒の集う学校でも、文化や習慣、考えの違いを楽しみながら、グローバルな価値観と友情を育むことができました。晩御飯の時には、「アップデートタイム」といって、その日にあった事について家族で話し合っていますが、娘の学校での出来事、発見から私たちが学ぶことも多々あります。

「育児は育自」とはよくいったもので、いつかは卒業する子育て、しっかりと向き合って、私たち一人一人の「個育て」にもつなげていこうと思います。



(ご家族と一緒に)

中村 喜一郎 氏

〈最終学歴〉

大阪府立大学大学院工学研究科

化学工学専攻 博士前期課程修了(工学修士)

〈ご所属〉 P&G 株式会社

同じ会社で働く妻の妊娠・出産に際し、育児休業を敢行

その経験を朝日新聞の「育休父さんの成長日誌」に連載、出版(共著)

『「育休父さん」の成長日記 ～育児休業をとった6人の男たち』 / 朝日新聞社。